

ピアホームだより

2015. 8. 10

発達障害の子どもの薬物療法について

—日本小児神経学会HPから—

自閉症スペクトラムの子どもでは、環境理解の悪さ、因果関係の理解困難などから、物事の見通しが立たず常に不安な状態にあることが多く、イライラ感やパニックを引き起こします。また、状況判断の間違い、コミュニケーションの障害から被害感を生じ、乱暴な行動、攻撃行動が見られることもまれではありません。この攻撃行動が内に向かえば自傷行為となります。「こだわり行動」は生活に支障のないものは放置してもかまわないですが、「こだわり」のため家庭や学校・園での生活の流れに支障をきたす場合には治療の対象となります。「こだわり」がひどくなる原因として、子ども自身が環境の理解が

できていないためであることが多いので、その対策をとることが先決です。生活をする中でのストレス、「うつ」やPTSDも多く、大人の「うつ」と違ってイライラ感として現れやすい特徴があります。自閉症スペクトラム障害のある子どもでは多動性・衝動性や不注意を伴うことも多く見られます。

1) 中枢神経刺激薬

多動性・衝動性や不注意に対し、メチルフェニデート（徐放剤）が使われます。選択的ノルアド再取り込み阻害薬アトモキセチンも近年導入されています。

2) 抗精神病薬

定型抗精神病薬は多動・衝動性や反抗挑戦性障害、チック、こだわり行動に使用されます。

3) 非定型抗精神病薬

自閉症スペクトラム、行為障害、反抗挑戦性障害、双極性障害にみられる攻撃性、興奮、自傷およびチックに使用されます。保険適応外使用です。

4) SSRI、SNRI、三環系抗うつ薬はこだわり行動、うつ、不安障害などに使用されます。

抗不安薬、SSRI、ベンゾジアセピン系薬剤は不安、心身症、抑うつ、睡眠障害、緊張、PTSDに使用されます。

5) カルバマゼピン、バルプロ酸、クロナゼパムは、気分変調、躁うつ、てんかん発作、イライラなどに使用されます。

6) 抗ヒスタミン薬（ヒドロキシジン、ジプロヘプタン）は不安、睡眠障害に使用されます。

7) 循環器用薬（クロニジン、プロプラノロール、グアンファシン）は興奮、不安、攻撃性、自傷、チック、PTSD、多動・衝動性などに使用されます。

8) その他

コリンエステラーゼ阻害薬（ドネペジル）は認知障害、実行機能を補助します。リチウムは攻撃性、自傷、うつ、イライラに使用します。

今後のスケジュール

<8月21日>入居希望者面接